

御礼 第13回日本応用老年学会大会

テーマ：健康寿命の延伸と応用老年学

第13回日本応用老年学会大会・総会が、新開省二大会長のもと、2018年10月20日（土）・21日（日）の2日にわたり、東京都健康長寿医療センター研究所にて開催され、のべ250名以上（参加登録141名）の方にご参加いただき、盛会となりました。

特別講演では、弘前大学 COI 拠点長であり同大学大学院医学研究科社会医学講座特任教授である中路重之先生により、「青森県の短命返上活動から見えてくるもの：世界一の健康ビッグデータに答えはあるか？」と題した講演をいただきました。会場を引き込む巧みな話術



で、青森県の事例からどのようにしてビッグデータを活用し、民間や企業とともに連携する健康ムーブメントとしていったか、データを短命返上に活かす可能性を示す講演となりました。

シンポジウムは2つ開催されました。シンポジウム①では、「健康寿命を延伸することの意義」をテーマに、国の行政の立場から厚生労働省老健局総務課課長補佐の石井義恭氏、一般市民に密接にかかわる地方行政の立場から東京都大田区福祉部高齢福祉課課長の堀恵子氏、社会保障を取材し続けるマスコミとしてNHK解説委員の飯野奈津子氏、地域活動の担い手として「元気！ながさきの会」代表の伊藤登氏による講演が行われ、それぞれの立場からとらえた健康寿命延伸の考え方と取組みについて熱い議論が交わされました。

シンポジウム②では、「応用老年学に期待する！」と題し、我が国の応用老年学の先駆者であり桜美林大学名誉教授・招聘教授の柴田博先生、社会疫学の立場から産官学・分野横断的協働の必要性について東京大学高齢社会総合研究機構特任講師の村山洋史先生、高齢化が進む日本で企業が進める「健康経営」について経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課課長補佐の岡崎慎一郎氏、産業界から事業継承についての現状を東京商工会議所板橋支部事務局長の新保邦彦氏がそれぞれ講演し、応用老年学の社会での活かし方について学べる機会となりました。

また一般演題発表は、口頭発表30題、ポスター発表9題となり、発表テーマの分野も幅広く、活発な議論が交わされました。今大会では新たに優秀賞が設けられ、厳正な審査の中どの演題も甲乙がつけがたく、3人の審査委員から一人ずつを推薦するという形で優秀者を選出。以下3名の方が優秀賞として閉会式で表彰されました。

- *大須賀洋祐先生 東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム（口頭発表：ADL障害の発生を抑制する運動種目：8年間のコホート研究）
- *島影真奈美先生 桜美林大学大学院老年学研究科（口頭発表：ホテル業界における高齢従業員雇用の促進要因：雇用の質に着目して）
- *對馬友美子先生 株式会社ビデオリサーチ（ポスター発表：定年男性の力を地域社会に呼び戻すために：「リビングラボ」を活用した事例）

初めての2日にわたる開催となりましたが、多くの方にご来場いただくとともに、会員・関係者各位のあつのご配慮により、無事終えられました。誠にありがとうございました。

（第13回日本応用老年学会大会事務局・一般社団法人日本応用老年学会本部事務局）